

<魅力ある学校づくり構想について>

No.	質問・意見等	豊中市からの回答等
1	以前から市は庄内の人口が減ると分かっていたはずである。例えば、阪急電鉄の高架化は、その地域に人口が増える環境が整っていることが背景にある。神戸線も神崎川駅から園田駅までを高架化するために、人口増加に向けた環境整備に努めるべきであるが、大島町では続々と商店が閉店し人口が目に見えて減少してきている。市は今まで何の手出ても打たずにいたにも関わらず、今になって、子どもが減少しているから学校を合併するというのはどういうことか。具体的に人を呼び寄せるための構想をたてることこそが必要であり、人口が減っているから市民に負担をかけるというのは、到底理解できない。庄内南小学校をなくすことを初めて聞いたが、なぜ千成小学校に移すのか。なお、千里中央は団地を建替えて戸数を増やしたから人口が増加するのは当たり前である。	これまでも、小規模等の課題がある学校では、課題別学級編制や小中連携等の施策を推進してきました。しかし、庄内地域には複合的に絡み合う課題が存在し、少子高齢化の顕著化や、小中連携・小中一貫教育にとって障壁となる分割進学の課題等が大きくなっています。そうした様々な課題の解消を図るため、場所、敷地面積、通学距離等を総合的に勘案して、本日の構想案に至りました。なお、構想案1では千成小学校が、構想案2では庄内南小学校及び千成小学校が、南校の敷地として活用される想定となっています。千成小学校はせんりこども園も使用できると仮定すると敷地面積が17,500㎡であるのに対し、庄内南小学校は13,500㎡と少し狭くなります。こうした面積等の事情も考慮したうえで、いくつかの案を検討し、庄内地域全体を俯瞰した最適な案として、この2案をご提示しました。今後は保護者、地域住民の皆様のご意見を多数いただいたきながら固めていきたいと考えています。(仮称)南部コラボセンターと「魅力ある学校」づくりをあわせて検討することで、学校と地域の魅力を相互に高め合い、南部地域活性化に向けた起爆剤になるものと考えています。人口減少への対応につきましては、過去の経緯は諸々あると思いますが、このタイミングは時宜を得ていると感じています。
2	公民館でクラブ活動を活発にしているが、会場として使用している学校の体育館等は、今後どうなるのか。学校再編に伴い、現在各校で行っているクラブ活動ができなくなるのではないかと心配している。	跡地利用につきましては、市として、今後、地域の意向や地域団体の活動場所、災害時の避難所等、様々な観点から検討していきたいと考えています。なお、学校耐震化による防災機能の確保等の取り組み経過も踏まえ、単純にすべてを更地にするにはならないと思われます。こうした状況も踏まえ、今後、皆様のご意見を伺いながら跡地利用を検討していきたいと考えており、現時点で明確には回答できません。
3	学校再編により通学距離が伸びる。通学路には道幅が狭く歩道もないような道路が多いが、登下校時の安全確保はどうなるのか。	現状の通学距離を基準にすれば、おっしゃるとおり、時間・距離が伸びる地域もありますが、逆に短くなる、あるいは、ほぼ変わらない地域もあります。新しい学校でもできる限り、既存の通学路を使用したいと考えていますが、今後、新たに通学路となる箇所が出てくるとも想定されます。登下校時における子どもの安全確保は最も重要な検討課題であり、都市基盤部、警察等と連携しながら、必要な対策を十分に検討し対応していきたいと考えています。
4	ゴーヤカーテンの設置に関わり市立学校を32校訪問したが、一部の学校で大阪府の学校であるから豊中市教育委員会の指導を受けないと言われた。市内の小中学校は豊中市教育委員会の管轄ではないのか。	豊中市内には、市立の小・中学校の他に、私立学校、大阪府立の支援学校等があります。具体的な学校名が分からないので、お答えしかねますが、少なくとも市立の小・中学校は、豊中市教育委員会が所管しています。
5	移行期の庄内南小学校区と千成小学校区の子どもは、小学校から中学校への進学時に一旦、第六中学校・第七中学校へ分割進学するが、その後の学校再編に伴って、さらに南校へ転校することになる。1～2年ですぐに学校を移ることになると、部活動等にも影響がでるが、子どもたちの精神的な負担をどのように考えているのか。	『庄内地域における「魅力ある学校」づくり構想について』スライドのP.26、構想案1の再編スケジュール(例)では、平成33年度の新校舎竣工に向けて、平成31年度に別の敷地で北校・南校を一旦開校するという案を提示しています。この場合、平成30年度の中学1、2年生はそのまま在籍ごと学級編制を行い、第六中学校の生徒は第十中学校へ、第七中学校、第十中学校の生徒はそのまま通学し、平成31年度以降の新中学1年生から新たな通学区域の新設校へ通っていただく、という想定をしています。子どもたちを工事期間中、学校に残して工事を進めることは適当ではないと考え、一学年ずつ順番に移行していくという案をご提示しています。まだ十分に検証できておらず、今後、皆様のご意見をいただきながら検討を重ねていきたいと考えています。
6	「魅力ある学校」づくりの構想案2の小学1～4年生までの校舎では、小学4年生が最上級生になるが、他市でこのような実績はあるのか。他市事例があるならば、実際に小学4年生が最上級生となった場合、学校運営上支障はないか。	4-5の指導区分の施設併用型小中一貫校は全国に2地域3校と認識しています。実際に視察しましたが、これまで小学4～6年生で実施してきた委員会活動等におきまして、小学4年生が最高学年として活躍すること等を通じて、上級生としての自覚が培われ、リーダーシップ等の力がついてきていると聞いています。しかし、どうしても小学4年生としての力量には限りがあるため、さらに上の学年のレベルをめざすには、もう一方の小学5年生以上の校舎との連携を通じて高めていく必要があります。
7	少子高齢化で児童生徒数が減少してきているから学校統合するという論理は理解できたが、財政基盤はしっかりと整えられるのか。	「魅力ある学校」づくり構想の整備には多大な費用を要しますが、学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた検討は、市民協働部、財務部、資産活用部等の庄内関係部局とともに様々な観点から丁寧に議論を積み重ねてきました。市長も12月市議会定例会で「魅力ある学校」づくりへの強い決意を表明したところです。財政にはその時々々の事情もあり、実際に設計・建築という段階では調整等が必要になると思われませんが、この方向性で市として踏み出していくという決意を持って構想案をご提示しています。

No.	質問・意見等	豊中市からの回答等
8	9年間を見通した小中一貫教育が良いという前提で話を進めているが、全国的にもあまり実績のない小中一貫校を、庄内地域に導入し、実際に上手くいくのか分からないということではいけない。市は、南部地域への小中一貫校の導入に自信があると、胸を張って市民へ説明できるのか。また、本日の説明内容は多様な部署に係る内容だが、説明会には責任ある職員が出席しているのか。	4-5の指導区分の校舎併用型小中一貫校は全国2地域3校だけですが、この他にも様々な形態の小中一貫校が全国に多数存在します。文部科学省では、小中一貫教育等についての実態調査がある中で、各校区の実情に応じた小中連携、一貫教育を推進しているところです。様々な検討の結果、庄内地域は、小中学校が一体となった小中一貫校を整備できる条件が整っており、小中一貫教育を推進しやすい環境であると判断しました。今後は、教育委員会だけでなく、現場の教職員等も含め、一致団結して、小中一貫校の実現に向けて、自信と意欲を持って取り組んでいきたいと考えています。
9	「庄内地域における「魅力ある学校」づくり構想について」スライドのP.24、構想案1の北校では、第六中学校と庄内小学校の敷地を利用しているが、両校の間の「あいさつロード」はそのまま残されるのか、自転車等の通行もあり、安全面への配慮に不安が残る。	P.24のスライドでは現行の「あいさつロード」を残した配置図を一例としてお示ししていますが、具体的な検討はまだできていません。「あいさつロード」は市の所有地ですが、地域の生活道路として定着しているものと認識しています。学校建設に際して、「あいさつロード」を移動することも考えられますが、開発行為等の建築に関わる条件との兼ね合いもあり、検討を要します。建築条件や地域の方々の暮らし等を踏まえたうえでの案として、配置図の一例をご提示しています。
10	登下校時の安全確保に関して、例えば、稲津町1丁目から庄内小学校までは、約1.8km、22分の想定と昨日の説明会で回答されたが、小学1年生の歩く速さではもっと時間がかかる。基本方針では、「登下校時における児童・生徒の安全確保を前提として、道路交通事情や防犯上の安全性を見極めてうえで、具体案を作成することとします。」と書かれている。小学1年生の子どもでも安全に通学できるという具体的な案を示して欲しい。基本方針には、「稲津町1～3丁目の調整区域の解消に努めます。」と書かれている。今回、詳細な説明がなかったが、調整区域はどうなるのか。	稲津町1～3丁目の調整区域は、学校教育審議会の答申を踏まえて教育委員会が作成した学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針に基づいて、解消に努めることとしています。現在、本来の指定校は豊島小学校と第十中学校ですが、稲津町から北校の庄内小学校までの距離と、豊島小学校までの距離は大きく変わりません。今後、皆様のご意見を伺いながらどちらの学校に通っていただくかを検討していきたいと考えています。「魅力ある学校」に通いたいというご意見が多ければ、新たな学校を指定校とすることも考えていますが、その際は、都市基盤部や警察等との連携や、保護者や地域の皆様のご支援をいただきながら登下校時の安全確保に努める必要があると認識しています。
11	今回の説明会は、子育て世代が参加しづらい日時の設定である。今後、各学校等でこの内容について説明する予定はあるのか。	『庄内地域における「魅力ある学校」づくり構想について』スライドのP.33、今後のスケジュール(想定)でもお示ししていますが、説明会は今回限りで終わりという訳ではありません。今後は各学校、自治会、地域団体等の会合に寄せていただくなどして説明したいと考えています。会合の場では十分に時間がとれない、別の機会を設定して丁寧に説明してほしいといったご要望がありましたら、改めて日程調整のうえ説明に伺い、皆様のご意見をいただきたいと考えています。ご希望の方は、「魅力ある学校」づくりに関しては学校教育課計画係あて、(仮称)南部コラボセンターに関しては庄内公民館あて、ご連絡ください。

<(仮称)南部コラボセンター構想について>

No.	質問・意見等	豊中市からの回答等
1	庄内出張所の庄内駅前移転は、12月の議会答弁で初めて分かったが、高齢化が進む中でなぜ、高齢者にとって不便な遠くの駅前へ移転するのか。もっと早くから市民に知らせるべきである。庄内には空き家が多いが、大阪市は空き家対策窓口を設けている。教育も、箕面市はタフレットを3人に1人配布している。保育も、大阪市は幼児教育無償化を進めている。他市と比較して豊中市の行政は遅れをとっている。	(仮称)庄内駅前庁舎への手続・届出といった窓口機能移転に係る経過につきましては、(仮称)南部コラボセンター基本構想の策定後に、庄内駅前の敷地が購入できたため、南部地域に必要な機能のうち駅前立地の利便性を最も活かせる機能の整備案としてご提案したものであります。今回初めてご提示しましたが、今後は本日より検討を深めていきたいと考えています。
2	小学校区で公民分館、校区社協、防犯、日赤、自主防災、民生等、中学校区で地域教育協議会等の多様な地域団体が存在するが、今後、学校再編によってどうなるのか。	現在、様々な団体が校区単位でご活動し、地域コミュニティの活性化にご尽力いただいています。地域コミュニティは学校再編に伴い変更されるものではなく、地域のご意向により、新たなコミュニティの範囲や活動の実施方法等が形成されるものと考えています。今後は、各団体のご意向を伺いながら対応していきたいと思っています。
3	(仮称)南部コラボセンターの前提は、ワンストップで庄内出張所・労働会館・庄内文化センターを一か所にまとめるというものである。しかし、庄内出張所を維持したまま、手続・届出窓口機能を駅前に移転するというのは最初の前提に反する。また、開庁時間が9-17時、駐車場なし、ということでは市民は不便になる一方であり、勤務する職員の都合が良くなるだけではないか。	(仮称)南部コラボセンター基本構想の策定後である昨年、(仮称)庄内駅前庁舎の購入が決定したという経過があります。南部地域に必要な機能として基本構想で抽出された5つの機能のうち、駅前立地を活かせる、手続・届出窓口機能の移転を検討しました。確かに、現庄内出張所よりも自動車でのアクセスが不便になりますが、駅前の商業集積地であり、買い物等の機会にあわせて気軽に立ち寄れるという意味での利便性を考慮しました。なお、本日の説明内容は決定事項ではなく、市の考えをお示したものです。今後、市民とともに熟議を重ねながら検討を進めていきたいと考えています。

No.	質問・意見等	豊中市からの回答等
4	<p>庄内の南部・西部の住民は庄内駅まで出向くことがあまりない。駅前を開発し、南部地域の今後の人口増加に向け、整備を進める可能性はあるのか。また、神崎川駅と園田駅の間には駅を設置するとの噂もあるが、検討の事実はあるのか。</p>	<p>昭和から庄内再開発を進めてきたという経緯や、現在、ハード面の整備が進められていること等は存じていますが、検討状況・計画についての詳細は確答しかねますので、いただいたご意見を持ち帰り、所管課へ報告します。</p>
5	<p>庄内出張所の手続・届出窓口機能移転について、現庄内出張所の利用率が低いから、通勤・通学に便利な庄内駅前の狭い土地にわざわざ移転するのか。地域で生活する高齢者にとっては、家から気軽に立ち寄れる立地であり、阪急バスの停留所等もある現庄内出張所の方が利便性が高い。なるべく現庄内出張所のまま、機能をもう少しコンパクトにしながら維持し、（仮称）庄内駅前庁舎については、本当に市民が求めるサービスの整備を考えてほしい。</p>	<p>（仮称）庄内駅前庁舎は、駅前の商業集積地であり、市民の利便性が高いと総合的に判断した結果、手続・届出といった窓口機能の移転案をご提案しています。今後、現行案で進めることになれば、市内他地域の窓口と同様に、公共交通機関の利用をお願いすることになるが、公共交通機関の利用が難しい方については、他施設の補完的な機能で対応できないか検討していきたいと考えています。例えば、転出入や戸籍、印鑑登録等の手続機能自体は（仮称）庄内駅前庁舎への移転を想定していますが、それ以外の問合せ・文書対応、物品配布、届出の預かり機能等、出来得る限りの対応を他施設で補完できないか検討していきたいと思います。</p>
6	<p>市には転勤族の多い地域がある一方で、そうでない地域である「庄内」という土地の特異性が今回の検討からは見えてこない。千里コラボセンターは多様な世代の市民が協働で運営している。これと同様に、南部コラボも市民協働が進められると思うが、もっと深く掘り下げて検討を進めていただきたい。</p>	<p>（仮称）南部コラボセンターの取り組みには歴史があり、南部地域活性化市民会議等で多く市民からご意見をいただくとともに、（仮称）南部コラボセンター整備検討会議で、南部地域の小・中学校長や公共施設の長等とともに検討を進め、基本構想を平成26年3月に策定しました。その後も、意見情報交換会等において、機能ごとに専門的な知見を有する学識者等の意見をいただき、構想に反映させながら検討を深めてきたところです。今後も、市民とともに検討を進め、ラウンドテーブル等の取組みを広げていきたいと考えています。本説明会後は、個別に地域団体等へ説明に伺い、地域のご意見を受けとめながらより良いものをつくり上げていきたいと考えています。</p>